

巻頭言 就任の御挨拶

大阪医科大学
神経精神医学教室 教授
金沢 徹文



大阪医科大学神経精神医学教室は昭和28年（1953年）に初代教授満田久敏先生が開講し、以来70年弱もの長きに渡ってここ高槻の地で精神医学を修めようとする先生方の基盤となってきました。二代目教授堺俊明先生（1976年～1997年）、三代目教授米田博先生（1997年～2020年）らは満田初代教授が研究の基盤とされた遺伝学による精神疾患の解明を研究の背骨とし、また精神科臨床を通じた後進の育成にも尽力されました。加えて大阪医科大学の発展という観点においても、歴代の教授たちは多くの功績を成し遂げてきました。

令和2年4月1日に私が着任することとなりました。私は平成12年（2000年）に本学を卒業し、一般消化器外科での研修を終え精神神経科に転向した変わり者です。学生時代にはラグビー部に所属し、決して褒められた学生ではありませんでしたが、この度四代目として命を受け、身の引き締まる思いで当教室を率いていく覚悟です。46歳と若くしてこの任に就けたことの意味を噛み締めて仕事を続けていこうと考えています。

特に精神医学は私が医師になった頃に比べると社会からの見方が最も変わった医学の分野であるような気がしています。発達障害、うつ病、認知症、新型コロナ後のメンタルヘルスなど新聞で精神疾患に関する記事を読まない日がないほどです。この科を志す優秀な学生、レジデントが多く集い、精神疾患に関して研究面や臨床面で切磋琢磨し、なんとかして社会からの要請に応えようと奮闘しています。他の科の疾患とは異なり精神疾患は「目に見えない病気」であることから患者さんが受ける偏見はいまだ根強いものがあります。詳細な病態解明や信頼に足るバイオマーカー開発、最適化された治療方策などやらないといけないことが精神科にはまだまだ多く残っています。

さらに大阪医科大学はこの4月から大阪薬科大学との合併が決まっています。蓄積された薬理的知見を元にした大阪薬科大学の叡智とともに、今後多くの仕事を共に成し遂げていく所存です。それは、4代に渡って同じ命題に取り組んできている本学精神神経科であればこそ未来を見据えた意義のある共同作業が可能となるものと考えています。これまで以上に開かれた教室を主宰し、世界をあっと言わせる研究成果を在任中に成し遂げようと思いを強くしています。

最後になりましたが、様々な形でこれまでよりも多くの期待を当教室に寄せてもらえればと考えています。私を含めてまだまだ若い教室員ですが、皆様とともに汗を流していく覚悟です。今後ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。